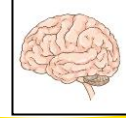


今回のおはなし

「レビー小体型認知症」

「正しい医療情報」

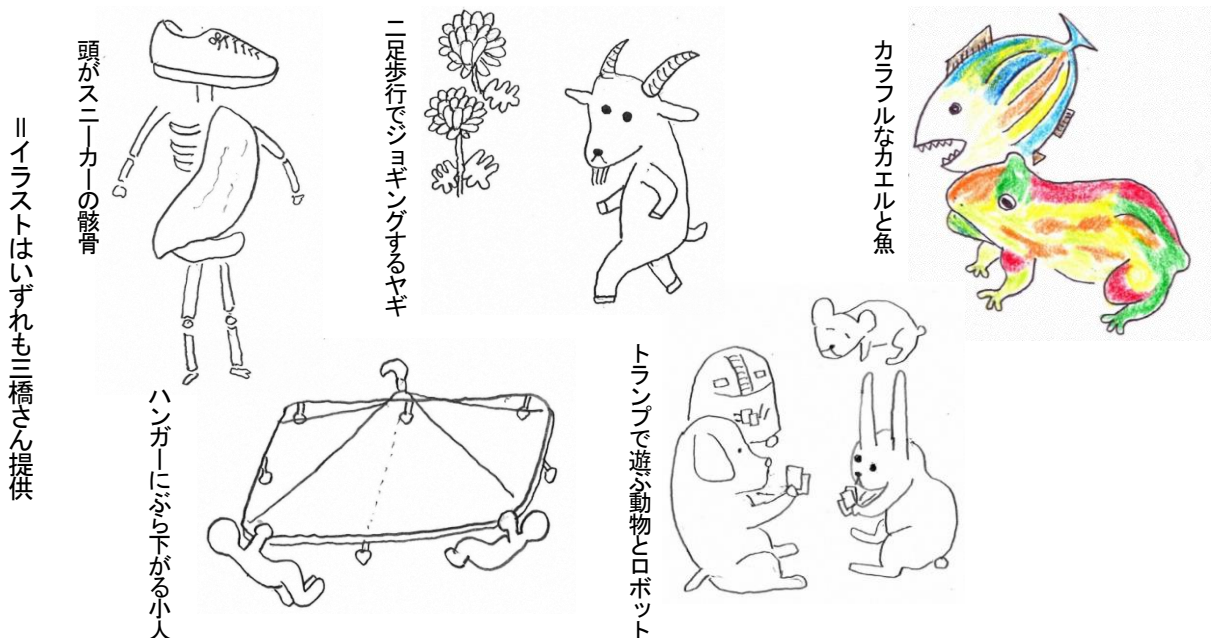


レビー小体型認知症の症状

「幻視」の世界へようこそ

レビー小体型認知症とは、認知症の一種で脳の神経細胞に「レビー小体」と呼ばれる物質がたまって起きます。具体的な幻視が大きな特徴で、認知機能障害やパーキンソン症状などが表れることもあります。アルツハイマー型認知症にあるような記憶力の低下は、あまりみられません。

東京都大田区立蒲田図書館長の三橋さんが、レビー小体型認知症の影響で寝覚めに現れる幻視をイラストにして、動画投稿サイト「ユーチューブ」などで紹介しています。恐怖を感じる幻視はほとんどなく、地域の仲間と出版を目指す運動も始まり、「認知症という言葉に含まれる負のイメージが少しでも変われば」と話しています。三橋さんによると、実際には存在しないものが見えたのは2018年11月。明け方、枕元に近づいてきた雌の飼い猫、たまちゃんに触れようとすると伸ばした手が体をすりぬけました。それはたまちゃんの幻視でした。翌月には、縄文時代の土偶が空中に浮かんでいたそうです。精密検査を受け、幻視が特徴であるレビー小体型認知症と診断されました。幻視は、ほぼ毎朝現れるようになったものの、あっという間に消えてしまうため、記録として絵に残ることにしたそうです。現在、仕事を含む日常生活は問題なく送ることができていて、「運よく選ばれた人だけが見える幻視の世界を楽しむ、というスタンスで付き合い合っていきたい」と話されています。



正しい「医療情報」どう選ぶ？

「なんとなく体調不良が続くけど、どうしてだろう？」「家族が病気になってしまったが、どんな治療がいいのか？」……。医療や健康にまつわる情報を求める時、まずは、インターネットで検索するという人は多いと思います。ところが、膨大な検索結果の中には、正確でない内容が交じっていることもあります。あふれる情報の見極め方を紹介します。ネットを使えば、国や研究機関が発信する医療健康情報を誰でも知ることができます。一方、科学的根拠（エビデンス）に裏付けられた標準的な治療とは異なるものや、効果があるのか怪しい商品の広告にも簡単に行き当たります。後々になって後悔したり、健康被害につながったりしないよう、情報をうまく見極め、意思決定していく必要があります。医療健康情報を集めて活用する力は、「ヘルスリテラシー」と呼ばれています。日本人のヘルスリテラシーを点数化すると、他国より低い傾向になると言われています。

本来はヘルスリテラシーの高い人でも、病気や不安に襲われている時には、注意が必要です。例えば、大病だと診断され、もう手立てがないなどと言われたら？誰でも冷静さを保つのは、難しいと思います。そんな時には、一人で悩まず、主治医やかかりつけ薬剤師に遠慮なくご相談下さい。

ネットにあふれる医療健康情報

あやしい

何を信用したらいいの？

奇跡の治療法！

〇〇で病気が消えた

副作用無し of 最新薬

情報を見極める五つのポイント

- か** 書いた人はだれか？
→ 信頼できる専門家か。所属はどこか
- ち** 違う情報と比べたか？
→ 他の多くの情報とは矛盾していないか
- も** 元ネタは何か？
→ 引用文献や根拠となるデータはあるか
- な** 何のために書かれたか？
→ お金もうけだけが目的ではないか
- い** いつの情報か？
→ 情報が古く、現在では違う場合も

…これらが確認できない情報は「価値もない」

聖路加国際大・中山和弘教授への取材から



感染症は、自分がかからないように予防することが大切ですが、人にうつさないようにする意識も大切です。慌てず、冷静に対応するようにしましょう。最新の熱中症情報を得ながら、外出後は、**手洗い・うがい・消毒**を忘れずにするようにして下さい。夏のマスク、気を付けて下さい！

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実 1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス toiawase@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>